

## シティアクセス株式会社 安全研修会レポート

2017年1月12日

バス事業部

タイトル 1)

貸切バスで大きな惨事を二度と繰り返さないために安全研修会を実施

本文 1)



安全・安心なバスの運行のために、毎年実施している安全研修会。

今回は大勢の若い命が奪われた「軽井沢スキーツアーバス事故」の背景にある貸切バス業界の問題、バスを運転しながらスマホを操作するドライバーが後を絶たない問題をテーマにした講話を実施。

神奈川県バス協会・クラブツーリズム株式会社・神奈川県警察本部 第一交通機動隊をゲストに迎え、シティアクセス本社に各営業所のバス乗務員、ご協力旅行会社様など約40名が参加しました。



安全研修会の様子は地元・神奈川テレビ、神奈川新聞、貸切バスの達人など各メディアが

取材。TVK テレビでは1月12日のニュースで、神奈川新聞では1月13日付けで報道されました。



(出展：神奈川新聞 2017年1月13日 朝刊)

タイトル2)

「軽井沢スキーバス事故」が浮き彫りにした貸切バス業界の闇

本文2)



講話に先立ち、神奈川バス協会提供によるビデオ上映「迷走する轍（わだち）～貸切バス業界の闇～」を視聴。

---

テレビ信州・テレビ金沢で制作された「NNN ドキュメント」という番組で放送されたものです。

全国の貸切バス業者に行ったアンケートと取材で、国土交通省が定めた貸切バス料金・運賃制度の下限額を大幅に下回る金額で受注せざる負えないバス事業者や、手数料・広告宣伝料などの名目で運送引受書上の契約金額からキックバックを要求する旅行会社の実態。監査の網をすり抜けて横行する違反の実情がわかりました。

「軽井沢スキーバス事故」でも旅行会社から下限を下回る金額で受注していたバス事業者が、大型バスの運転に不慣れなドライバーがハンドルを握り、33件もの法令違反を起こしていたことが判明しています。

貸切バス事業に参入したばかりのこのバス事業者では、車両整備や乗務員教育、安全対策などをおざなりにしていました。

このバス事故はまさに起こるべくして起きたもの。その結果、大勢の未来ある若者たちの命が奪われたのはやりきれない思いでいっぱいです。

この事故を教訓として、安全なバスの運行を胸に近いながら、犠牲者の方々の冥福を心からお祈りし、全員で黙とうをささげました。



タイトル 3)

バス事業者、旅行事業者、それぞれの信頼回復のために

本文 3)

続いて、バスツアーでお取引のあるクラブツーリズム株式会社 バス仕入・開発センター所長の桑原様が登壇。

昨年報道されたバスドライバーが運転中にスマホを操作していたことで、大きな社会問題になったことについてご講話いただきました。



クラブツーリズムが主催したバスツアーで、貸切バスの運転手が高速道路運転中に、スマホを操作しているところをとらえた動画がツイッターに投稿されて発覚。

各メディアでも大きく取り上げられたのが3月のことです。その後、当該運転手にはクラブツーリズムが主催するツアーへの乗務禁止措置を要請。

社内の安全管理ルールの徹底や再発防止に努めるとともに、契約している貸切バス事業者に対し、安全運行に加え、乗務員教育の強化をお願いしたそうです。

それでも5月、6月と運転中にスマホ操作する運転手がいたことが発覚。その運転手が所属する貸切バス事業者には、たとえ数日後に運行が迫っていても、運行契約停止。別の貸切バス事業者へ切り替えなどの徹底した措置をとったそうです。

この他にも全国でバスの運転中にゲームやチャットなどを行い、自損事故や人身事故などを起こす事例が起きています。それも同じバス事業者で繰り返し発覚するケースも。

今回の問題で浮彫になったのは、運転手の「当事者意識の低さ」と「バレなければいい」という安易な考え方。



神奈中バスでは、バスに乗務する際、スマホや携帯電話はトランクルームにしまうことが義務付けられているといます。

スマホ操作している運転手の動画が投稿されて以来、バス運転中のドライバー、一挙手一投足が注目されるようになっていきます。

操作することはもちろん、お客様から誤解を受けないよう、運転席周辺に見えるように置かないように注意しなければなりません。

昨年の12月に日本バス協会から配布された「乗務中における携帯電話・スマートフォンの危険性等について」という資料を熟読し、一人ひとりが当事者意識を持ち、乗務中のスマートフォン・携帯電話の操作を絶対に行わないことを確認しました。

タイトル 4)

華麗なテクニックで魅せる白バイ隊のデモ

本文 4)



続いての講話は神奈川県警察本部 第一交通機動隊 白バイ特別訓練監督 草苺様です。今回は特別訓練員の北村様・高山様が同行。白バイ隊の高い技術を駆使したビデオを視聴しました。

ビデオの中で、高山様は小柄な女性ながら、大きなバイクを自由自在に操り、高い運転技術を披露されていました。



草苅様からは「バスとオートバイ、運転するものは違えど、お互いプロのドライバーとして日々技術を研鑽し、より高い安全運転を心がけていきましょう」とお話いただきました。

タイトル 5)

シティアクセスは「目配り、気配り、思いやり」を提供する会社

本文 5)

質疑応答、ゲストのご挨拶のあと、全員で事故防止の近い十カ条を唱和。



最後に藤木社長からの総括がありました。

貸切バス事業というのはお客様を目的地まで運ぶだけではない。お客様が快適に楽しく、安全に移動できるように「目配り、気配り、思いやり」が大切。

1人の手柄はその人のもの。でも、1人の失敗は全員のものとしてお客様からは見られてしまう。

安全運行は当たり前のこと。ドライバーが安全に運転できるのもプロとして当然のこと。その当たり前のことをいかに続けていくかはとても難しいことです。

「ただ安全研修会を定期的に行っています、参加しています」だけでは不十分。社員全員が1人ひとり当事者意識を持って、安心して楽しいバスの旅を提供できるよう気を引き締めて欲しいと訓示がありました。



シティアクセスでは事故につながるような「ヒヤリハット」の体験、運転中に起こしてしまったミス当事者本人が講師となり、事例の報告と原因分析、今後の安全対策についてのセミナーを行うようにしています。

なぜ起こしてしまったのかは本人が一番よく知っているはず。「体験」ほど役立つ教訓はありません。1人ひとりの体験を全員で共有することでより高い安全意識とヒヤリハットを少なくしていくことを改めて確認し、研修会を終了しました。